

鹿児島工業高等専門学校

数理・データサイエンス・AI教育プログラム 自己点検評価（1/2）

評価日時：令和7年3月10日

会議名称：自己点検・評価委員会

開催場所：鹿児島工業高専門学校

参加者：校長、副校長、校長補佐、専門学科長、一般教育科長、事務部長、総務課長、学生課長、その他関係者

目的：令和6年度数理・データサイエンス・AI教育プログラムの自己点検

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の審査項目の観点による評価

認定制度の審査項目	モデルカリキュラム	対象科目（H30～R3入学生）	内部評価
数理・データサイエンス・AIは、現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであること、また、それが自らの生活と密接に結びついているものであること。	導入 1-1. 社会で起きている変化 1-6. データ・AI利活用の最新動向	技術倫理総論（5学科）、国語Ⅰ（5学科）、創造実習（M）、創造実習Ⅱ（E）、創造設計Ⅰ（S）、システム設計学（I）、景観設計（C）	A
数理・データサイエンス・AIが対象とする「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得ること。	導入 1-2. 社会で活用されているデータ 1-3. データ・AIの活用領域	情報基礎（M・E）、電子制御工学基礎（S）、コンピュータリテラシー（I）、情報処理Ⅰ（C）、都市環境デザイン工学概論（C）、創造実習（M）、創造実習Ⅱ（E）、創造設計Ⅰ（S）、システム設計学（I）、景観設計（C）	A
様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、数理・データサイエンス・AIは様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するものであること。	導入 1-4. データ・AI利活用のための技術 1-5. データ・AI利活用の現場	技術倫理総論（5学科）、国語Ⅰ（5学科）	A
数理・データサイエンス・AIは万能ではなく、その活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮することが重要であること。また、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解が重要であること。	心得 3-1. データ・AI利活用における留意事項 3-2. データを守る上での留意事項	技術倫理総論（5学科）、国語Ⅰ（5学科）、情報基礎（M・E）、電子制御工学基礎（S）、コンピュータリテラシー（I）、情報処理Ⅰ（C）、都市環境デザイン工学概論（C）、創造実習（M）、創造実習Ⅱ（E）、創造設計Ⅰ（S）、システム設計学（I）、景観設計（C）	A
実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関すること。	基礎 2-1. データを読む 2-2. データを説明する 2-3. データを扱う	工学実験（M）、電気電子工学実験Ⅰ（E）、工学実験Ⅰ（S・I）、土質工学実験（C）、材料科学実験（C）	A

評価基準 A：十分満足している。B：満足している。C：改善を要する。

鹿児島工業高等専門学校

数理・データサイエンス・AI教育プログラム 自己点検評価（2/2）

評価日時：令和7年3月10日

会議名称：自己点検・評価委員会

開催場所：鹿児島工業高専門学校

参加者：校長、副校長、校長補佐、専門学科長、一般教育科長、事務部長、総務課長、学生課長、その他関係者

目的：令和6年度数理・データサイエンス・AI教育プログラムの自己点検

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の審査項目の観点による評価

認定制度の審査項目	モデルカリキュラム	対象科目（R4以降入学生）	内部評価
数理・データサイエンス・AIは、現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであること、また、それが自らの生活と密接に結びついているものであること。	導入 1-1. 社会で起きている変化 1-6. データ・AI利活用の最新動向	技術倫理総論（5学科）、現代の国語（5学科）、創造デザイン（M）、創造実習Ⅱ（E）、創造設計Ⅰ（S）、システム設計学（I）、景観設計（C）	A
数理・データサイエンス・AIが対象とする「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得ること。	導入 1-2. 社会で活用されているデータ 1-3. データ・AIの活用領域	コンピュータリテラシ（5学科）、創造デザイン（M）、創造実習Ⅱ（E）、創造設計Ⅰ（S）、システム設計学（I）、景観設計（C）	A
様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、数理・データサイエンス・AIは様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するものであること。	導入 1-4. データ・AI利活用のための技術 1-5. データ・AI利活用の現場	技術倫理総論（5学科）、現代の国語（5学科）	A
数理・データサイエンス・AIは万能ではなく、その活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮することが重要であること。また、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解が重要であること。	心得 3-1. データ・AI利活用における留意事項 3-2. データを守る上での留意事項	技術倫理総論（5学科）、現代の国語（5学科）、コンピュータリテラシ（5学科）、創造デザイン（M）、創造実習Ⅱ（E）、創造設計Ⅰ（S）、システム設計学（I）、景観設計（C）	A
実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関すること。	基礎 2-1. データを読む 2-2. データを説明する 2-3. データを扱う	工学実験（M・I）、電気電子工学実験Ⅰ（E）、工学実験Ⅰ（S）、土質工学実験（C）、材料学実験（C）	A

評価基準 A：十分満足している。B：満足している。C：改善を要する。